

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・SARSの影響で、海外からの振替による本州からの観光客が多くなっており、観光客の入り込みが多くなることで景気も良くなることが期待される。
		家電量販店（店長）	・下期は上期より若干売上指数が高くなることに加えて、暖房器具・AVなどで大物商品が動き出すことが期待される。
		家電量販店（地区統括部）	・季節商品は冷夏で苦戦しているが、OA・AV商品に復調の兆しがあり、今後は大いに期待できる。
		住関連専門店（経営者）	・今までの商品構成を大幅に変更するので期待している。
		観光型ホテル（経営者）	・在阪球団が好調であることから、関西方面からの客に期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・SARSも終息していることに加えて、インバウンドでの盛り返しもあることから、来客数の増加につながる。
		旅行代理店（従業員）	・本州から北海道への観光客が増加しており、観光関連産業での売上増加が幅広く波及していくことで、景気の底上げ効果が期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・医療費、年金、消費税の問題など、どれをとっても消費者にとって不安材料であり、生活防衛態勢が確立してきている。また、心理的に中階級意識が薄れ、自らランクを下げ、無理や無駄のない堅い生活パターンになってきている。一過性の要因はあってもこの意識は変わらない。
		商店街（代表者）	・すでに秋物商品の立ち上がりを見せているが、今年の秋は爆発的な商品が出るという状況が全く見えない状態であり、これといったトレンドがまだ見えてこない。
		商店街（代表者）	・これから総裁選や衆議院解散の要素があり、また、イラクへの自衛隊派遣といった問題等もあり、プラス面があまり見当たらないので、今後売上が良くなるという期待は持てない。
		百貨店（売場主任）	・繊維問屋やアパレル企業の倒産が相次いでいるが、客にもそうした情報が伝わっているため、今後も倒産企業の売り尽くし等をやらざる得ない状況にある。
		スーパー（店長）	・冷夏で夏物衣料が売れず、逆に秋物衣料が売れているため、3か月後に需要期を迎える秋冬物が前倒し傾向になっている。
		スーパー（企画担当）	・価格競争の沈静化が見られず、オーバーストアの状態も解消されないと思われるなど、好転材料はなかなか見当たらない。また、消費にとってマイナス材料となる総選挙も予想されることから、先行きの厳しさは変わらない。
		家電量販店（経営者）	・先行き不安から、客は高額の商品に手が付かず、どうしても必要なものだけを買ってしまう状況であり、今後も衝動的に商品の購入を決めることはない。
乗用車販売店（従業員）	・展示会の来場者の数は、昨年と比べて、あまり増えていないため、今後も状況は変わらない。		
住関連専門店（営業担当）	・消費マインドが冷え込んだまま夏物商戦が終わるため、季節商品の在庫が不安であり、このことが秋物商品の展開にも悪い影響を与える。		
高級レストラン（スタッフ）	・近隣で改築や新築住宅等の工事があり、多少お金の流れが出てくると思われる。		
一般レストラン（スタッフ）	・同じフロアに入居している競合店の撤退が決まるなど、生き残りをかけた厳しい状態が今後も続く。		
旅行代理店（従業員）	・SARSは一応の終結を見たが、すぐに海外旅行の需要の回復につながるとは考えにくく、現状が続くと思われる。		
旅行代理店（従業員）	・海外旅行の販売人員は5、6月で底を打った感がある。しかしながら一方で、最も販売人員の多い路線が運休するのは決定的であり、撤退の影響は大きい。		
その他レジャー施設（職員）	・通常の年であれば、スポーツ・観光シーズンが終了するとともに景気は悪くなるが、今年はイベントが入っているため、横ばいで推移する。		
美容室（経営者）	・季節や行事等にかかわらず消費傾向は変わらないような動きを感じる。		
住宅販売会社（従業員）	・購買量が減少しているのは、所得の減少が要因していると思われる、その要因は簡単に変わるものではないため、今の状態が持続する。		

	やや悪くなる	一般小売店〔土産〕 (店員) 乗用車販売店(役員)	・景気に対する不安感があり、客の財布のひもが堅い。今後も、こうした消費の冷え込みが物販店に影響していく。 ・車両代替も長引く傾向にあり、各整備工場も入庫台数が減少傾向になっている。
	悪くなる	スーパー(店長)	・全体の傾向は大きく変化していないが、来客数の減少が今月に入り顕著となっている。食品部門では、やや回復傾向にあるものの、買上点数の減少のため、売上増加は期待できず、今後も低調に推移していく。
		コンビニ(エリア担当)	・公共工事の予算減少に加えて、一次産業、特に農業の状況が非常に良くない。7月の悪天候が収量の減少に影響して、今後の景気に悪影響をもたらす。
		旅行代理店(従業員)	・SARSの沈静化で海外旅行の需要が戻りつつあるが、第1四半期の穴を埋めるため、企業としての体質改善を厳しく求められ、非常に厳しい状況である。
		住宅販売会社(従業員)	・住宅業界は販売量不足、需要不足のため、現在の業者数では需給バランスが取れていない状況である。このため、今後は下請業者や取引先の倒産が相次ぐ。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業(営業担当)	・農産物の出来が順調であり、受け入れ倉庫の引き合いがある。また、生乳などの輸送資材の増量も検討中である。
		通信業(営業担当)	・ここ数か月と比較して取引先の動向に少し積極的な設備投資等の動きが感じられる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕(総務担当)	・各地域からの責任者の報告が非常に前向きである。
	変わらない	食料品製造業(社員)	・冷夏の影響で農産物の収穫に心配がある。
		金属製品製造業(統括)	・見積りの引き合いが少ないため、受注量が減少すると予想され、今後も大きく変わらない。
		建設業(経営者)	・受注競争が激しく、単価も安いので、売上・収益ともに厳しい状況が続く。
		通信業(営業担当)	・ここ数か月、特段の変化はないので、しばらくは良い意味での平行線と考えている。ただし、高コスト体質の企業がコスト圧縮努力で業績を回復させた事例が何件も見られるので、こうした企業の動向に注目している。
		金融業(企画担当)	・公共工事、住宅着工件数は低水準であり、横ばいが続くものと思われる。ただし、観光関連はSARSの影響から道内旅行客の増加が見込まれる。
		その他非製造業〔機械卸売〕(従業員)	・見積り物件も増えてきており、そこそこの成約は見込めるものの、値引き要求がきつく、鋼材の値上げ分を認めてもらえないため、利益確保は難しい。
		その他企業〔コンベンション担当〕(従業員)	・本州地区の梅雨明けがぐずつき、また、道内においても冷夏になっているなど、夏らしくない年のため、活発な人の動きが感じられない。
	やや悪くなる	輸送業(支店長)	・ここ1、2か月、物流量が回復しているが、これは景気の影響を反映したものでなく、SARSの影響で外需が内需に替わったなどの外的要因によるものであり、あくまでも一時的なものと考えられる。夏を過ぎれば選挙等の問題も出てくるため、楽観が許されない状況である。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 (編集者) 職業安定所(職員)	・全般的に厳しい状況であるが、徐々に求人件数が増えてくると考えている。 ・今夏に商業施設の進出が予定されているが、これとは異なるところからの新規求人が目立ってきている。
	変わらない	求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人数は全体で見ると、前年と同じ水準まで落ち着いてきたが、業種や業態によってバラツキがあり、一概に悪くなっているとは言えない。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人広告については、季節的要因もあり、臨時の需要は高いが、相変わらず正社員の求人数が低迷している。
		職業安定所(職員)	・有効求人倍率は、12か月連続で前年同月を上回ってはいるものの、全道平均よりも低い水準で推移している。
	やや悪くなる	職業安定所(職員)	・8月地元の大手百貨店が閉店するため、大量の離職者が発生することが想定される。また、閉店後の施設利用についても未定である。
	悪くなる	-	-